

園長だより NO.92

暑い暑い、夏の到来、年を重ねるごとに暑さが増していく現状、5年、10年先にはどうなっているのでしょうか、世界の温暖化に歯止めをかけ、明るい子ども達の未来につながることを願っています。それぞれができることを意識し実行していきたいものです。

子どもの命を守ること・感染症の対応から

コロナウイルスが5類相当の取り扱いになり数か月、社会生活にも変化がみられています。感染者数はここにきて増加の傾向となり今後の拡大を懸念しています。今後、帰省、旅行等で人の往来、接触が増えていくことが予測されます。5類になっても油断は禁物です。日々の体調管理には注意を払い、気をつけたいものです。

乳幼児の生活圏でコロナとは別の感染症が瞬く間に流行しました。手足口病、ヘルパンギーナ、RSウイルス、従前は緩やかに広がりつつあるものが今年は爆発的に感染していきました。

保育園は集団生活の場、ひとりの罹患児童がいれば数日から数週間で感染は広がります。それぞれの子により類似した症状は現れるものの軽症の子、長引いて体調不良が続いてしまう子、症状が速やかに出る子、時間の経過とともに徐々に出てくる子、それぞれの子により状況は異なるものです。



2023.8.1

保育園から発熱や体調不良のお子さんについてお迎えの連絡をすることがここ数か月、感染症の拡大で増加しました。

発熱、気分がすぐれない、普段より機嫌がわるい、食事を満足に取れない、咳込んでいるなどの姿をみることはほぼ毎日です。私は子ども達の姿をみて、できるだけ早くお迎えに来ていただきたいと思いを抱きます。辛そうにしている子どもをみていると胸がつまる思いを感じる事が多くありました。

保護者への連絡は主に看護師が対応しているのが現状です。連絡を入れることには非常に気を使われ丁寧に対応しています。

仕事の重要性もわかっている。勤務先の了解を取り付けるのも大変なこと、度々の早退や欠勤、保護者の負担もあることも承知している。ただ、私たち保育従事者は第一に子どものことを優先して考えます。

時に子どもの状況は一変する。数分後に容態が変わることも、救急搬送も体験している。過去には無熱性の痙攣から意識が混濁、救急搬送を依頼し救急隊の判断でドクターヘリの出動、そんな命の尊さをすさまじく実感する体験もある。

保育の現場では体調不良児を多くみて対応してきたことも事実です。数々のケースから、「大丈夫、症状は軽いから」と目の前の子どもを見守るだけではいけないと痛感する。体調不良の児童への対応は原則、保護者に連絡をとり速やかにお迎えに来ていただくこと

を優先しています。

保育園は病児保育、病後児保育の実施はありません。ただ体調不良児保育という対応はしています。※体調不良児保育・保育中に発熱等の体調不良になった場合に保護者が迎えにくる間、看護師の管理の下、児童に対応していくものです。

ただし長時間に及ぶものではありません。子どものことを一番に考え、子どもにとって適切な対応を考えて迎えの連絡となります。

乳児クラスのお子さんについては無理をしないこと。または「大丈夫だろう」ということが通じません。「もう一日お休みすれば、状態はよくなるのに」ということもしばしばあります。大丈夫だろうと登園してぶり返してしまうケースも多くあります。

これから夏から秋・冬にかけても異なる感染症が流行することが予測されます。

勤務先や家族内での調整など大変なことは承知しておりますがお子様のためご配慮いただければ幸いです。

日頃のご協力にも感謝しております。

よく動くからだに

酷暑が続いて戸外あそびが制限される日々が続いています。水遊び、泥んこ・プールも毎日の気温とにらめっこ、おひさまの日差しをさんさんと浴びてのびのび遊ぶがことできない日々、夏のあそびが秋への飛躍的な身体の成長ベースとなる。この時期は特に「遊べ遊べ」である。解放に浸り、水、土や

自然物とたくさん戯れ、心の開放からいろいろな感情や思考の機会を得ていくこと、心の要求を身体に伝え、いろいろな機能をつかいて遊びこんでいく、夏ならではの遊びには成長につながる要素がたくさんあります。

昨今の異常気象はもう当たり前の様相になっていることを考えると戸外に出なくとも園内の環境を使い十分に身体を使う遊びを工夫していかななくてはなりません。一日10時間～12時間、保育園で過ごす子ども達にとって「動と静」のバランスをとり充実できるようにしていくことが必要となる。

今年も保育現場は試行錯誤で適切な環境で遊ぶことを考え実践している。少しずつではあるがこの気象条件下での保育の在り方を意識しているのが現状です。

よく動く身体には心(脳)の平穏も密接に関係している。時代と共に変化している様々な環境に保育も対応することが求められている。

子ども達のよく動く身体は私たち大人で決まるものと肝にめいじたいものです。

まだまだ続く酷暑、体調の管理には十分、気をつけて下さい。子ども達は大人とは異なり自分で管理することはできません。関わる大人が子ども達の体調の異変、兆候を感じ取り適切に対応するように心がけましょう。

暑い夏、楽しみながら乗り切りましょう。



(園長 廣部 信隆)

